

市民活動交流館(メイトム宗像)で2月27日に開かれた「第3回宗像食育のつどい」。今回は、健康づくりの 源である食べる楽しさや大切さを考えるきっかけになればと、市民記者が取材しました。

発表

(1)

||教育大の学生らの支援

賞を受賞しました」。





37

なで広げ よ

■問い合わせ先 り組んでいる元気 t ; この: 民健 **3**6 1 団体のみな 87

ち、「食がた食育 やすことが目的です。育に関心を持つ市民を を増

生産者や消費者団体、個の「食の文化祭」を開好評だった持ち寄り料理好評だった持ち寄り料理 発表と特別ゲストによる よる食資源活用の実践 第1部は、学校や団体

画された今回の食育のつ実践活動の一環として企げよう食育活動の輪」の

ぐわたしたちの環境」「広 で守ろう次世代に受け継

ランの

柱のうち、

健康むなか

する団

団体や個人で構成し、市内で食育活動を

しました。「食」を通し た実行委員会と市 一の交流を広げ、 が主催 人約180人が参加

り

た『ふくおか減CO2(ゲ

で

ながって いる

150団体が参加し

で実施すれ

ば、

ごみ処理

りました」。

9。市内全世帯0パーセント減

も

節減できることが

が分かり

慢

(1)

料

理

「食味わ

経費を年間20

2

ら出る野菜くずを活用 を育てています」。 食小 の児童代表4人。「給発表のトップは、玄海 の食べ残しや給食室か -成19年から、 土に返して元気野菜 市

理教室も実施している同

の元気。

合っています」。土と元るぐる回って1つに溶け

連携による地産地消料

域の食育推進団体と

クラブ。「農村女性グルー

連絡研究会『みそ汁

で福 「元気野菜作り」を発表する玄海小児童 素晴らしい資源になるこのごみですが、生かせば菜くずは、捨てればただ 習に役立てています。「野 とを知りました」。手が 菜を育て、給食や調理実ぜて作った発酵肥料で野 ずにEMボカシと土を混 の子どもたちが、野菜く を受け、児童環境委員会

みんなで「元気野菜」 けた野菜は10種類 クラブが発表。「地産地続いて、宗像高校家庭 促進やダンボール んでいます。 -の活用、 以 コン 普及に努力しています」。を作って、地元産食材の豆や小麦でみそやうどん 受けながら、宗像産の大 ア省エネ共和国の井上利 最後は、葉山ヘルスケ

めている生ごみの水切り 大臣が、市と協働で進 は水分。この 生ごみの80パー

スト



講師の吉田さん

ごみの命は、微生物(細代表の吉田俊道さん。「生いる「大地といのちの会」 んの命に変わります。菌バクテリア)の菌ち ごみの堆肥化を推進して ちゃんの元気は大地 長崎県佐世保市で生 の特別ゲスト 菜 ち の完菌を 「学校での元気野菜作スに語りかけました。

気野菜をモデル

循環

し

■むなかた協働大学の卒 業式を取材して、18年前 の学校卒業時を思い出し に■卒業の達成感、新生

たいと思います。

(み)

と共生の摂理をユーモラ

6 年)

出品しました。

詰めた料理は全部

キャラバン隊』の指導を

がらせる素晴らしい取り活を変える意思をわき上持ちを養い、本気で食生 は、 組みです」と活動の輪を り は、食べ物への感謝の気りや地産地消促進活動 しました。

どれもおいしそうな

おからのミニコロッケを お弁当箱 食べ 持ち寄り料理の数々 号の本欄で紹介した料理 用平くん(赤間西小2 用平くん(赤間西小2 相したよ。感想のカード 出したよ。感想のカード た」と満足そうでした。 昨

18 年 :。

振り返ることで、

さん人に支えられてきた

新しい目標を持って新

度をスタートすること

できた■最後に、3月

されたみなさん、あり 日付けで市役所を「卒業」

とうござい

ました。

品を出品。子どもや男性 個人45品と13の団体が40 増えました。料理クラブからの出品も る「食の文化祭」。今回は、参の弁当箱に自由に詰め 作り料理を並べ、 年)は、「お母さんが森林るりさん(河東小 が持ち寄った手 各自持

野菜の元気は人間 すべての命はぐ



食べた料理の感想を カードに書いて張る参加者

で からの /ル活動 います。昨 年 取 量できます。 水切りで8

「食」を通して考えよ 環境を守る第一歩



康

な取

荒牧管理栄養十

市では、平成19年度に策定した「健康むなかた食育プラン」の 中間見直しを平成21年度に実施しました。

市民アンケートの結果を県や国の状況と比較すると、市の食育 推進の5本柱(図1)のうち、①と②は意識が高いものの、まだ 普及が進んでいない部分が分かりました。

そこで、市では今後5年間、環境や地産地消、郷土料理の普及 を強化しながら、食育の推進を図ることとしました

ではいりながり、反向の定定で図ることとしなりた。			
	図1	市の食育推進5本柱	
	1	育て! 自らの食を選び楽しむ子どもたち	(郷土料理の普及を含む)
	2	食で防ごう! 生活習慣病	
	3	活かそう! むなかた育ちのいきいき食材	(地産地消)
	4 1	で守ろう! 次世代に受け継ぐわたしたちの環境	(環境)
	5	広げよう! 食育活動の輪	

「食」と「環境」、一見すると関連がないようですが、わたした ちの口に入るものは、「大きな地球の営みの中で生まれている」 ということを考えれば、結びつきます。

「宗像食育のつどい」は、今回で3回目。「食べる→捨てる→育 てる」という「食と環境の循環」をテーマに実施しました。高校 生や子育て世代の参加者が増え、食や環境に対する思いが、次世

代に確かに受け継がれていること を感じました。

グラフ1は、毎日の生活で環境 を守る行動を心がけているかを聞 いた結果です。40%の人が「い つも」と答えていますが、「して いない」と答えている人が11% いました。

食や環境に関する取り組みは、 日々の暮らしの中で続けていくこ とが大切です。今回の食育のつど いだけでなく、各団体が市内でさ まざまな活動を展開しています。 新しいことを始めるのにぴったり なこの季節。身近で無理なくでき ることから、少しずつ始めてみま せんか。

グラフ1

環境のために、「無駄のない食生 活を送る」「使い捨て容器を使わ ない」「容器や食材をリサイクル する」などを心がけていますか



(平成20年度健康づくりと 食育に関するアンケート結果)

平成4年の姉妹都市締結後、国同士の諸問題で何後、国同士の諸問題で何の「自分たちの文化をの「自分たちの文化を知ってもらおう、伝えよの「自分たちの文化を知ってもらおう、伝えよう」とする気持ちで、それらを乗り越えてきまし ■「光化学スモッグに注 もないのに不思議だった の発生注意」。晴天で風 中央に旗が立つ日があっ ■小学生の時、運動場の (う) ときずなの深さを感じる た■草の根交流の力強さ 訪問 た。「コウカガクスモ まつりに参 ∑ を読んで、そうだっ「光化学スモッグに注 寸 が、 ·加しました■

市民活動交流

物質、日ごろから注意してに悪影響を与えるこのない有害物質に恐怖心がない有害物質に恐怖心がない有害物質に恐怖心が 広報紙への意見・要望を右記に寄せてください。

▽発行:宗像市 ▽住所:〒811-3492 福岡県宗像市東郷1-1-1 ▽編集:情報政策課広報係 TEL:0940-36-1055 FAX:0940-34-2002 メールアドレス: koho@city.munakata.fukuoka.jp